

# 会員通信 No.270

岩手県俳人協会事務局  
〒020-0001岩手県盛岡市上米内字赤坂1-60 二階堂光江方  
電話019-661-4816 振替02310-1-13697

## 第46回岩手県俳人協会総会・新年俳句会終了

…選者に寺島ただし本部評議員・新年俳句会賞は八重樫美佳氏…

新年度を迎えて

会長 白濱 一羊

会員の皆様におかれましては、御健吟のことと存じます。

一時期、収束に向かうかと思われた新型コロナウイルスは、オミクロン株の出現により、再び猛威を振るっております。昨年に引き続き、各種俳句大会の開催が危ぶまれる状況です。

1月29日(土)に行われた岩手県俳人協会の総会・新年俳句会は、昨年に続き講演や懇親会を中止として、ホテルメトロポリタン盛岡にて実施されました。少人数での開催となりましたが、新年度の事業計画・予算や新役員などを承認していただきました。多数の投句をいただいた東北大会岩手大会の報告もなされました。昨年度は東北俳句大会のために中止とされた鍛錬会ですが、今年度は10月2日(日)に紫波町方面で行われる予定です。

新年俳句会は、八重樫美佳さん(盛岡市)の「湯で洗ふ馬の蹄や深雪晴」が大会賞を受賞されました。

今年度も厳しい状況が続くと思われていますが、皆様の俳句活動を少しでも支援することができるよう努力したいと思いますので、会員の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

昨年度は、12名もの新会員をお迎えし、今年度もすでに5名が加入なさっております。今後とも、積極的なお声掛けをお願いしたいと思います。

くれぐれもご健康に留意なさりながら、今年も俳句を良き伴侶としてお過ごしください。

### ◇令和4年度岩手県俳人協会事業予定

#### ◇第46回総会・新年俳句会(実施済み)

・期日 令和4年1月29日(土)

#### ◇第43回鍛錬会

・期日 令和4年10月2日(日)

・吟行地 紫波町(詳細は決まり次第、会員通信でお知らせします)

#### ◇会員作品集発行(第44集)

・令和5年1月1日発行予定 ・会員自選10句掲載

・会員に1部配布(一般頒布1,000円)

#### ◇俳句普及事業の推進

・公民館等の「俳句講座」への講師派遣

・公民館等への講師派遣事業の拡大、案内 他

※講師派遣のご希望がある場合は、お早めに、普及部長及川永心(019-645-2418)

または、事務局二階堂光江(019-661-4816)宛ご相談下さい。

### ◇令和4年度新会員の推薦について

新しい会員の推薦を受付いたします。同封の会員推薦要領をご覧ください、『会員推薦書』用紙に記載の上、事務局宛送付下さい。(3月31日締切) \*本人の了解を必ず頂いて下さい。

### ◇令和4年度会費納入のお願い

・年会費 6,000円

\*同封の振込用紙で3月中の納入をお願いいたします。

\*振込料は各自負担となります。よろしくお願いいたします。

石丁尔俳人協会



白濱一羊会長(右)から新年俳句会賞を受ける八重樫美佳氏(左)ホテルメトロポリタン盛岡

入選(七句)

年新たちやんで呼び合ふ九十路 このそじ

鈴木 和子

手紡ぎの毛糸のタグに羊の名

鈴木 和子

冬銀河駅の名はエスペラント語

齋藤 實

炭樫の綱のくひこむ父の肩

篠村恵美子

雲くぐる度に蒼増す冬の月

菅原 典子

トーストのこんがり焼けて開戦日

山火 律子

常よりも声に張りある初鴉

吉田 茂樹

☆馬場吉彦先生 特選(順に天・地・人賞)

ねんねこを呼びとめらるるニューヨーク

佐藤 靖子

高台の小さきアトリエ雪螢

阿部ゆき子

短日のモツアレラチーズ切れぬピッツァ

伊藤 恵美

入選(七句)

非人情の境地をしぼし読始

土川喜代子

どんど火にコロナマスクも抛りけり

津志田 武

一尋と数ふ荒縄雪囲ひ

瀧澤マツノ

小高きに父祖の墓据へ冬田かな

上野 節子

惜しまれて畳む蕎麦屋や年の暮

伊藤 文明

再婚を悩める母や焚火跡

中村セイ子

父の庭の鯉もらはれてゆく師走

菊池留美子

☆澤口航悠先生 特選(順に天・地・人賞)

新曆晴れも曇りもある暮し

佐々木八千代

智恵の輪のやうに白鳥首回す

相馬 定子

狐火や灯ることなき轆轤小屋

和田 タケ

入選(七句)

ねんねこを呼びとめらるるニューヨーク

佐藤 靖子

牛飼ひのまづ牛小屋に注連飾

及川 忠子

湯で洗ふ馬の蹄や深雪晴

八重樫美佳

玻璃窓の青空も拭き春支度

兼平 玲子

下りきれずのぼりきれずに雪螢

早川 羽山

十二歳のヘアドネーション年新た

千葉 百代

荷解きの上がり框や曆売

畑 育子

☆及川茂登子先生 特選(順に天・地・人賞)

下りきれずのぼりきれずに雪螢

早川 羽山

ちちははに近き思ひの小米粥

岡部 玄治

冬銀河賢治の詩の口に出て

佐々木 充

入選(七句)

雪かきの丁寧祖母に育てられ

菅野 啓子

北限の茶の花咲いて海しづか

津志田 武

声立てず破魔矢づくりの巫女溜り

穴戸 田良

茹で上げる今朝は新種の花椰菜

工藤 幸子

新曆晴れも曇りもある暮し

佐々木八千代

何無くもがつこ正月迎へけり

小林 輝子

叢雲の茜に染まる淑気かな

吉田 茂樹

☆及川永心先生 特選(順に天・地・人賞)

補聴器の電池を替へて年用意

小山 尚宏

缶切のいらぬ缶詰一茶の忌

佐々木昌子

新聞を地層のごとく積み三日

二階堂光江

入選(七句)

茶の花や湯気しゅんしゅんと朝厨

及川ふき子

湯で洗ふ馬の蹄や深雪晴

八重樫美佳

玻璃窓の青空も拭き春支度

兼平 玲子

海の見ゆ墓地に笛鳴ばかりかな

千葉 常子

高台の小さきアトリエ雪螢

阿部ゆき子

トーストのこんがり焼けて開戦日

山火 律子

結局は元に戻して年用意

岩渕みゆき

☆新年俳句会賞（寺島ただし先生選）

湯で洗ふ馬の蹄や深雪晴 八重樫美佳

☆寺島ただし先生 特選（四句）

大根を送る故郷の土つけて 池内 雅一  
病床に坐して遥拝御慶かな 齋藤 實  
眼も耳も脚も不具合年用意 中嶋 広江  
鮫鱈の平にご容赦といふ形 小野寺東子

入選（十七句）

冬ぬくし紅き蹴出しの湯もみ唄 佐藤 靖子  
今もなほ屋号で呼んで松迎へ 大石 文雄  
ねんねこを呼びとめらるるニユーヨーク 佐藤 靖子  
毛糸編み心の透間埋める夜 沼倉 規子  
真つ直ぐに光堂さし初詣 鈴木 睦子  
父母のこゑ聞きし仏間の淑気かな 高橋 洋子  
牛飼ひのまづ牛小屋に注連飾 及川 忠子  
あの山は祖父の寝姿風花す 二階堂光江  
老いてなほ明日にゆめあり返り花 伊藤さとし  
子に齡問へば問はるる初座敷 安達 広子  
大いなる夕虹くぐり白鳥来 伊藤さとし  
炭櫃の綱のくひこむ父の肩 篠村恵美子  
智恵の輪のやうに白鳥首回す 相馬 定子  
聡からぬ耳もまた良し女正月 大平 春子  
駆け下る地駄曳き馬や息白し 畑 育子  
荷解きの上がり框や暦売 畑 育子  
鋸のこをもて分けあふ冬至南瓜かな 佐藤 嘉子

◇講師講評

ご来盛頂けなかつた、講師の寺島ただし先生より、文面により講評を頂戴いたしましたので紹介します。

○新年俳句会賞

「湯で洗ふ馬の蹄や深雪晴」

馬にとつては、「第二の心臓」とも言われるほど大事な蹄を、ぬるま湯で丁寧に洗っている場面であろうか。馬への愛情、さらには日頃の飼い主と馬との絆が感じられ、周りの輝くような明るい雰囲気、「深雪晴」の季語に象徴されている。穏健な作風で格調がある。

○講師特選

「大根を送る故郷の土つけて」

畑の土がついた新鮮な状態で荷造りをしたのだ。親密な関係を窺わせ、「故郷の土」と表現したところに無上の懐かしさが滲み出ている。

「病床に坐して遥拝御慶かな」

病の床から神社などに向かって新年の挨拶をしたのだろうか。コロナ禍で対面できない事情なども考えられるが、懇ろで信心深い作者かと思う。

「眼も耳も脚も不具合年用意」

かなり高齢か多病の状況が窺われ、身につまされるが、「年用意」の配合によって、生活感が濃く出ている。新年を迎える心意気が伝わって来る。

「鮫鱈の平にご容赦といふ形」

鮫鱈は扁平で顔がややグロテスクだが、冬のちり鍋などと美味と言われる。その鮫鱈が料理されるのを拒んで訴えているかのような滑稽味がある。

☆白濱一羊先生 特選（順に天・地・人賞）

山眠る早ばや閉まる何でも屋 阿部ゆき子  
新聞を地層のごとく積み三日 二階堂光江  
下りきれずのぼりきれずに雪螢 早川 羽山

入選（七句）

あの山は祖父の寝姿風花す 二階堂光江  
生命線灯にかざし初湯かな 佐々木八千代  
結局は元に戻して年用意 岩渕みゆき  
聡からぬ耳もまた良し女正月 大平 春子  
よく乾び音の明るき朴落葉 大信田宏子  
耳朶のすぐにかじかむ蓮台野 澤口 航悠  
鮫鱈の平にご容赦といふ形 小野寺東子

☆小畑流先生 特選（順に天・地・人賞）

大根を送る故郷の土つけて 池内 雅一  
結局は元に戻して年用意 岩渕みゆき  
からからと絵馬の鳴りたる神の留守 齋藤 雅博

入選（七句）

すすはらひ血液型の違ふ父母 伊藤 恵美  
今もなほ屋号で呼んで松迎へ 大石 文雄  
大根引くこの世の穴の浅からず 和田 タケ  
老いてなほ明日にゆめあり返り花 伊藤さとし  
雪白く山河ととのふ平泉 菅原 如空  
白鳥の首をすつくと水鏡 畠山えつ子  
鮫鱈の平にご容赦といふ形 小野寺東子

☆小林輝子先生 特選（順に天・地・人賞）

声たてず破魔矢づくりの巫女溜り 宍戸 田良  
眼も耳も脚も不具合年用意 中嶋 広江  
鋸のこをもて分けあふ冬至南瓜かな 佐藤 嘉子

◇岩手県俳人協会役員紹介

先日の総会で役員が改選されました。新たな体制は以下の通りです。

顧問	村上 沙央・浅田 白道 小畑 柚流・小林 輝子 馬場 吉彦	理事	安達 広子 (作品部) 古川 和子 (句会部) 村井 康典 (事務局次長) 新任
会長	白濱 一羊	監事	津志田 武 菊池 節子
副会長	澤口 航悠 (作品部長) 及川 永心 (普及部長) 二階堂光江 (事務局長) 新任	事務局	阿部ゆき子 (会計担当) 八重樫美佳 (事業部担当) 新任
理事	川村 健 (句会部長) 新任 吉田 茂樹 (作品部副部長) 山火 律子 (普及部副部長) 大信田宏子 (句会部副部長) 新任	※及川茂登子副会長 (句会部長)、鉄本正人理事 (句会部副部長)、事務局の菊池留美子事業部担当はご退任です。長い間ありがとうございました。	

◇令和4年度の新入会員の紹介 心より歓迎いたします。

姓 号	住 所	所 属
遠藤 篁芽	盛岡市	鷹
菅原 武男	盛岡市	草笛・沖
伊藤 恵美	盛岡市	樹氷・いつき組
齋藤 雅博	盛岡市	樹氷
菅原 節香	一関市	樹氷

★お悔やみ申し上げます。  
舞田公子様 (盛岡市・樹氷)  
令和3年11月10日ご逝去

俳句大会ご案内

◇第29回雑草園祭

- 期日 4月24日(日) ○会場 日本現代詩歌文学館 ○受付 9:30~
- 当日句 11:00締切 (詩歌の森公園・雑草園の囀目雑詠2句) ○開会 11:05
- 参加料 1,000円 (昼食各自)
- 記念講演 講師 小林輝子先生 (『風土』『草笛』『樹氷』同人)  
演題 未定
- 募集句 3月1日に締切りました

◇第64回啄木祭全国俳句大会

- 期日 5月8日(日) ○会場 渋民公民館大会議室 (盛岡市渋民文化会館内)
- 当日句 11:00締切 (当季雑詠2句 ただし、啄木忌も可) ○開会 12:00
- 募集句 3月末日締切 (当季雑詠2句1組、未発表・何組でも可 投句料は1組1,000円。小為替等で同時送金)

\*投句先 〒020-0861 盛岡市仙北2丁目28-50 石澤利男方「啄木祭全国俳句大会事務局」宛

◇第1回啄葉祭俳句大会

- 郷土の生んだ俳人で元岩手県俳人協会会長、小原啄葉先生を顕彰する俳句大会を開催いたします
- 期日 5月22日(日) ○会場 プラザおでって (盛岡市中ノ橋通)
- 受付 11:30~ ○当日句 12:30締切 (当季雑詠3句) ○開会 13:00
- 参加料 1,500円 (昼食各自)
- 募集句 2月末日に締切りました

☆お知らせ

○令和3年度岩手県俳人協会会員作品集 (第43集) を1冊1,000円で販売しております。またこれまでの作品集もいっくらか残っておりますので、ご入用の方は事務局までご連絡下さい。

事務局; 019-661-4816 二階堂光江